

# 関東農政局長賞受賞

受賞者 特定非営利活動法人 奥<sup>おく</sup>利<sup>と</sup>根<sup>ね</sup>水<sup>すい</sup>源<sup>げん</sup>地<sup>ち</sup>域<sup>ら</sup>域<sup>い</sup>ネ<sup>き</sup>ット<sup>き</sup>ワ<sup>き</sup>ーク  
(群馬県利根郡みなかみ町)

【～求む！遊び人～ネットワークでつなぐ、

新たな農村の価値の創造未来につなぐみんなの美しいふるさと】

## 1 取組の動機と背景

当団体が活動するみなかみ町藤原地区は山岳部にある多雪地帯であるとともに、4つの大規模ダムを有し、首都圏の水がめを支えている地域である。主要な産業は観光業と農業で、国立公園、スキー場、温泉といった豊富な観光資源や、豊かな農村風景、観光農園や直売所が存在している。

しかし、バブル崩壊や長年続いたダム建設の終了から、中山間地域共通課題である人口減少、過疎化・高齢化が急激に進行し、近い将来、地域の存続が危ぶまれていた。

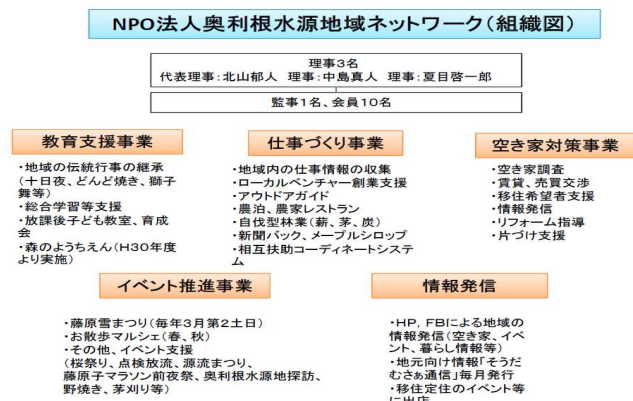
そのような状況において地域の各団体間の連携や協働を進め、総合的に地域全体の課題解決を目指そうと発足したのが「NPO法人奥利根水源地域ネットワーク」である。移住者であり、かつ若手リーダーが活動に参画してからは、農泊やグリーン・ツーリズム等をビジネス的に取り組み、むらにお金が入る仕組みを構築し、地域資源を活かした様々な事業を展開している。さらに地域に人を呼び込み、定着してもらえるような環境づくりを推進している。農村での新しいライフスタイルの提案や子育て支援の拡充等住みやすく魅力ある環境を整え、移住者が移住者を呼ぶむらづくりの活動に挑戦を続けている。

## 2 主なむらづくりの内容

- 当法人は、地域住民や地元商工会、民宿組合、観光協会、役場、各業界の団体等と連携するとともに、地域の団体を総括し、課題に対して各団体や住民をつなげる調整役を担い、様々な事業を実施している。農泊関係では、役場や観光協会等と連携し、都市へのPRや学校規模の受入れ体制の整備、農家には農家民宿や農林業体験等のプログラム開発を行い、当団体を中心となり地域全体で進めていく仕組みを構築している。
- 関連団体と連携し、都市住民との交流事業を展開している。継続した都会の子どもの農山漁村体験の受入れに加え、ダム巡りツアー、雪国ツアー、お散歩マルシェ等の農村の豊かな資源を活かした各種イベントを開催している。これらイベントを通じて、人々を呼び込み地元住民との交流を促進させ、むらの暮らしを知り体験する機会を提供し魅力をPRしている。
- 当団体が復活させた十日夜（子ども達による収穫祭）、自伐型林業の推進、炭作り、わら細工づくりは里山資源の活用ルートを再建させ、里山の景観の維持と継承に貢献している。また、地域全体での農泊の推進は、農家の副収入機会の増加と安定した農業経営に寄与している。さらに、移住者を呼び込む魅力あるむらづくりの結果、現在までに17名の子育て世代が移住しており、活動の継続に不可欠な後継者が育成されている。
- 地域の所得向上のために、6次産業化商品の試作や直売所の運営を模索している。また、移住者を呼び込むため空き家や仕事、田舎暮らし等の情報発信に力を入れ、空き家物件を活用したテレワーク等の新しいライフスタイルの提案や、保育園（森のようちえん）の設置や子育て支援の拡充にも取り組み、これからも移住者が移住者を呼び込む活気あるむらを目指している。

## 3 むらづくりの推進体制

【体制図】



【連携図】

